



火の柱

Friends of Jesus 2024年3月第738号

イエスの友五綱領

- ①イエスにありて敬虔なること
- ②貧しき者の友となりて労働を愛すること
- ③世界平和のため努力すること
- ④純潔なる生活を貴ぶこと
- ⑤社会奉仕を旨とすること

イエスの友会は、上の五綱領を、生き方の基盤としているキリスト者と賛同者の群れです。(結成1921年10月5日)

テーマ「一同は聖霊に満たされ」1p「霊に燃えて」東海林昭雄、2p「羽咋教会とわたし」岩城輝雄、「春期聖修会に参加して」佃和男3p「春期聖修会スナップ」4p「夏期聖修会の御案内」高島史弘、「会計報告」小野島正彰

「人生は出会いで決まる」と述べたのが、ユダヤの哲学者であり、宗教学者でもあったマルティン・ブーバーですが、その彼が「対話とは、相手が存在することを認め合うことである」との言葉も遺しています。名著である『我と汝との対話』でもそのことに触れ、人間関係には「私とあなた」という関係と「あなたとそれ」という二つの関係があることを述べています。「私とあなた」という関係は相手の存在を認め向き合う関係です。それに対して「私とそれ」という関係は、向き合うことのない通りすがりの人、自分とは無関係であるとする現代的



東京支部クリスマス礼拝・祝会

霊に燃えて

書記 東海林昭雄

な個人主義の風潮に見られる姿であると言えます。

賀川豊彦の生涯は「貧しき者の友となる」ことでしたが、悲しめる者、苦しめる者の存在を認め、隣人となり共に生きた、想いと行動が一体となった実践的な生き様であったと言えます。その働きの大きさは人の力量をはるかに超えており、聖霊の導きと働きがあったからとしか言いようがありません。

賀川が当初始めた働きが、救貧活動であり、それが防貧活動へと移って行きました。しかし労働運動が過激となり挫折、その結果、協同組合の働きへとその主軸が移され、現在、農業協同組合や生活協同組合という形で実が結ばれています。

使徒言行録二章四三節以降に、聖霊に満たされた人々が、すべての物を共有し、必要に応じて分け合った姿が記されてきています。そして「喜びと真心をもつて一緒に食事し、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」(四六、四七節)とあります。特に「好意を寄せられ、救われる人を日々仲間に加え一つにされた」という言葉に、協同組合などの姿が重ねて見えます。

人の想いと神のご計画は違うことがあります。使徒言行録一六章六節以降を見ると、「アジア州で御言葉を語ること

聖霊から禁じられたので」「ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった」とパウロの願いが阻まれています。

けれどもそのために「マケドニア州に渡ってきて、わたしたちを助けてください」との叫びを聞き、パウロは願っていたアジアではなく、ヨーロッパの宣教へと導かれて行き、その後の働きは聖書に記されている通りです。

鈴木武仁会長は交通事故に遭われましたが命が守られ、現在リハビリテーション病院にて治療に専念しておられます。

私自身鈴木会長との出会いは主の導きがあったとし説明しようがありません。四二年前にに独立し、新宿区内にあったバプテスト会館に事務所を設け、初めての来客が鈴木牧師でした。その後、同会館が埼玉県に移転することとなり、止むを得ず練馬区内の新築ビルに引っ越ししましたが、八階であるにも関わらず車の騒音でノリローゼギミとなり、僅か一カ月で引っ越しせざるを得なくなってしまうしました。新宿にある事務所の電話番号を変更したくないとの事情もあり、妻が探してきた新居は、鈴木牧師が牧会しておられる東京信愛教会の近くでした。追いつかれるように出、新たな地で鈴木牧師との親交を深めさせていただくことになりました。主の成される最善を感謝しています。鈴木武仁会長のためにも引き続きお祈りください。

羽咋教会とわたし

日本キリスト教団羽咋教会会員

岩城 輝雄



「あなたは心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」ヨハネ 14:1

私が初めて羽咋教会に行つたのは、高校3年の夏休み前であつた。学校で精神状態が悪くなつて、母と金沢の病院へ行くので、ホームルームの先生が駅まで送ってくれた。その二人に待ってもらい教会へ行き、牧師に「これから病院に行くが、退院したら礼拝に出たい。」と言つた。聖書との出会いは高校1年の時だつた。たしか、道で一冊5円の分冊聖書(四福音書・使徒行伝・箴言)6冊30円で買ったと思う。とても感動し、人には見せたくないという利己的な思いを持った。高校2年の時、図書室でギデオン協会より新約聖書をもらつた。この頃、教会の所在を知つたが、行かなかつた。高校3年の暮れ、切羽詰まつた思いから、二度目に教会に行つた。佐伯先生は丁寧な神様のことを教え、次の日曜日の礼拝に誘つた。翌年1月2日の礼拝に出席した。途中の本屋で兄からもらつたお年玉で聖書を買つた。説教はタラントの譬えだつた。その頃の私は劣等感と孤独で灰色の悩みの子であつたからよくわかつた。タラントを土の中に埋めた僕は私であり、社会の最小単位の家庭からも離れている自分であつた。礼拝後に青年達が親切にして

くれた。それから教会へ行くのが楽しみであつた。

卒業しても社会に出る勇気がなく家事を手伝つた。

求道と通院の生活であつた。そのうちに若い思いが悶々として就職することになった。三日も続かないと心配した。一週ごとに家に帰る前に牧師館に寄つて相談にのつてもらつた。時々台所で夕食を御馳走になり、夜中まで話し込んだ。佐伯先生は話の後、必ず祈つてくれ、玄関で見送ってくれた。洗礼はすすめられたが確信がなかつた。

クリスマス前の日、金沢の彦三教会(現・元町教会)のキャロリングに参加した。考えながら夜の町を歩いていたら迷子になつたが、街角で兄弟一人が待っていてくれた。会堂に帰つてお菓子を食べながらも、孤独を強く感じた。しかし、不思議なことにそのあと、この人たちの中にキリストがおられることを実感し、平安になり、受洗への確信が与えられた。

翌朝、一番のバスで羽咋へ行き、クリスマス礼拝の中で高桑牧師より、大沢姉とともに洗礼を受けた。結婚は佐伯先生夫妻と教会に大変お世話になった。妻千賀子は結婚したその年のクリスマス礼拝の中で、佐伯牧師より洗礼を受けた。宏志、順子。道三の三人の子は教会の祝福式にあずかり、教会付属の白百合幼稚園を卒業し、上の二人は教会学校の小学校に出席した。

イエスは「おいでなさい」と言われたので、ペトロは舟から下り水の上を歩いてイエスのところに行つた。しかし風を見て恐ろしくなり、そして溺れかけたので、彼

は叫んで「主よ助けください」と言つた。(マタイ14:29-30)

御言葉のように、信仰と不信仰、神か世かと迷う。今、教会でキリスト教入門講座を学んでいる。真山牧師のよく準備した手作りテキストで少人数でマンツーマン式で時間をかける。これが現在の私の喜びと力になっている。

○ イエスの友会との出会い

「火の柱」誌、田中芳三著「荒野に水は湧く」ぞうり履きの伝道者 升崎外彦物語」により、イエスの友会を知り、初めて1977年7月箱根「地塩苑」にて行われた夏期聖修会(第52回)に出席しました。賀川ハルさんから「すぐ友達ができますよ」と言われたことが記憶にあります。人材育成委員会が良くしてくれました。鈴木武仁先生、佃和男先生、遠藤正一兄等が年齢が近く楽しい思い出です。

○ 春期聖修会に参加して

今年2月春期聖修会に出席し、3人の講師と会員から学びと良き出会いがありました。

○ 第99回夏期聖修会に向けて

石川県金沢市で開催できることとなり、うれしく思います。

日時 2024年7月22日(月)から24日(水)

会場 金沢市、石川県青少年総合研修センター

最後に能登半島地震により被害を受けた方々と輪島教会を特に覚えて祈っています。ご支援を感謝いたします。

春期聖修会閉会礼拝奨励

上野の森キリスト教会牧師 佃 和男



2月19日、20日、湯河原千代田荘において、イエスの友会春期聖修会が開催された。

すばらしい集会であつたが、リハビリ中の鈴木会長とコロナ感染の高島事務局長が欠席されたことは誠に残念であつた。

私は閉会礼拝の担当で、マタイ28章16節-20節から奨励をさせて頂いた。イエス様は、人類の罪を贖うために十字架にかかり、三日目に復活し、天に帰れる時、弟子たちに三つのことを言い残された。

その第一は、「行つて、すべての民をわたしの弟子にしなさい。」第二は、「父と子と聖霊の名によって洗礼を授けなさい。」第三は、「命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」この三つである。

この命令は、二千年後に生きる私達クリスチャン、特に牧師や役員にも与えられた命令だと私は受け止めている。その第一の命令から、「行つて」という言葉に絞つて奨励した。

「行つて」というのは、家庭や職場、教会にとどまっていなくて、「出て行つて」福音を宣べ伝えなさいということである。

う。
私は家庭や職場や教会で福音を宣べ伝え、両親を救いに導き、職場や教会でも何十人の人々を救いに導いて来た。しかし、私はほとんどそこから「出て行つて」福音を宣べ伝えることはできなかった。勇気がなかったのである。

イエスの友の仲間には、教会を出て福音を宣べ伝えている人が何人かいる。毎日のように人の集まる所に行つて路傍伝道が続いている菅野直基牧師、路上生活を余儀なくされている人々にホームレス伝道が続いている高島史弘牧師などである。

また、並行記事のマルコ16章15節には、「全世界に行つて」とあるが、これは外国まで出て行つて福音を宣べ伝える海外宣教の働きのことであろう。私はアメリカから日本にやつてこられた宣教師を通してクリスチャンになることができた。海外宣教の働きの重要性を強く思うことである。

私の神学校同窓生で、大学生伝道と一緒にやつた仲間の牧師がいる。彼は、国内宣教にも大いなる働きをし、海外宣教のためにも自ら出かけたり、働き人を送り出したりしている。

私には彼らのようなまねはできないが、できることはしたいと思つてゐる。それは祈りと協力活動による後方支援である。カトリックのシスターである渡辺和子さんが、「置かれた場所で咲きなさい」との言葉を書物に残されているが、私たちはそれぞれ置かれた持ち場、立場で自分のできることを自分なりに果たして行くことはありませんか。イエス様は三つの

命令を伝えた後、「わたしは世の終わりで、いつもあなた方と共にいる。」と励まし、の言葉を残された。
主がいつも共にいてくださるとの約束は何とありがたく、心強いことでしょうか。

第三回「春期聖修会」のスナップ



石部公男氏 「賀川豊彦の立場で考える経済・政治・平和」と題して経済と政治を結び付けて平和の問題を語って頂いた



2月19日(月)から20日(火)に湯河原千代田荘で開かれた春期聖修会では、鈴木会長や高島事務局長が突然の事故や病気で欠席となりましたが、18名の参加で、大変有意義な会となりました。感謝でした。とくに、講師や証し者としてご奉仕くださった皆様に感謝します。



オリーブの会の五十嵐義隆氏
オリーブの会の働きと能登半島地震の震災支援の働きの現状を話して頂いた



閉会后、湯河原駅前恒例の路傍伝道。菅野直基氏の指導の下、参加者全員、霊に動かされて福音を伝えた



鮫島紘一氏「再臨と世の終わりの前兆」の奨励・証しを頂いた

2024年度 第99回夏期 聖修会 金沢で

○能登半島震災復興を祈る

○加賀藩前田利家に客人として招かれた高山右近とゆかりの地

○長崎キリシタンの殉教地

金沢卯辰山(うだつやま)

○賀川豊彦が師と仰ぐ長尾巻の起した日基金沢教会

テーマ 綱領 『純潔なる生活を貴ぶこと』

日時…2024年7月22日(月)～24日(水)



金沢 兼六園



会場…石川県青少年総合研修センター
〒920-0083 石川県金沢市常盤町2-12-1
7月22日(月)



第1日目
13:00 受付開始
14:00～15:00
開会礼拝(ホール) 奨励…
15:30～17:00
基調講演 案『北陸のキリスト教 賀川豊彦と長尾巻』
講師…梅染信夫さん
17:30～18:30 夕食 卓主…事務局依頼・本日のみの参加者より一言
19:00～20:30 司会;
7月23日 第2日目
7:00～7:40 早天集会 奨励…
8:00～9:00 朝食 卓主…事務局依頼 参加者より一言
部屋の荷物の片づけ移動
10:00～12:00 講演 榎本恵さん
『アシュラムについて』
12:00～13:00 昼食 卓主…事務局依頼・各支部報告



カトリック金沢教会にある高山右近像

13:00～15:00 講演 山形實さん
『高山右近に息吹かれ』
15:30～17:00 イエスの友会中
央委員会(大会) 司会…事務局
17:30～18:30 夕食 卓主…事務局依頼 参加者より一言
19:00～20:30
7月24日 第3日目
7:00～7:40 早天集会 奨励…
8:00～9:00 朝食 卓主…事務局依頼 参加者より一言
部屋の荷物の片づけ移動
10:00～11:20 活動報告会
11:30～12:00 閉会礼拝 奨励… 司会…
12:00～13:00 昼食 片付け・解散
申込等については次号6月号にて振込用紙で 会場・宿泊・食事はすべて青少年研修センターで行います。オプションツアー等も計画中です。日程等まだ変更有

【二〇二三年度会計報告】

《二〇二三年十二月以降二〇二四年二月迄の状況》

◎維持費(一万二千円) 五名(鈴木武仁、高島史弘、長谷川勝義、金子信一、鈴木諭香子)
◎会費(三千円) 十三名(加納武、鈴木武仁、岩倉正美、今関公雄、渡邊和郎、大野剛、高島リアン、田内基、広崎仁一、長谷川勝義、金子信一、佃和男、鈴木諭香子)
◎感謝献金五名(大野剛、平松英治、李善恵、田内基、石部公男)
◎クリスマス献金(鈴木武仁、岩倉正美、高島史弘、

◆会費納入と献金のお祝い◆
尊い献金と会費等でイエスの友会の活動をお支え下さり、イエス様にあつて感謝いたします。
▽たくさんの方から会費や献金をいただきました。感謝します。引き続き、各事業活動の費用のための会費や献金をお願いします。
会費、献金、維持費、購読料等の振込先は、次のとおりです。

▼郵便振替口座 〇〇一七〇一七一九五八六

加入者名 「イエスの友会本部」
いつもご支援を心から感謝申し上げます
(会計担当 小野島正彰)

「火の柱」 第738号

発行人 鈴木武仁

発行所 イエスの友会本部

発行日 2024年3月31日

本部事務局 441-8016 愛知県豊橋市弥生町西豊和4-7

高島史弘(イエスの友会 事務局長)

携帯 090-9994915190メール

takashima_m33@japan.email.ne.jp

郵便振替加入者名 イエスの友会本部

口座番号 00170749586

火の柱編集 長谷川勝義

火の柱原稿メール先 hwp59@xj.comufa.jp

〒440-0026 愛知県豊橋市多米西町2-

2012 電話・FAX 0532-61

4822